

大阪万博の経費と負担

ある NPO の方から、大阪万博の開催経費、とくに大阪市がどれだけ負担するのかという「質問」をもらった。レポートで何回か取り上げ、講演でも話題にしてきたが、現在の時点で全体的な万博財政を示してこなかった。手元の資料で質問にお答えはしたが、この際、万博財政をまとめてレポートしておきたい、それにしても、資料や情報が少なすぎる。「都」構想や維新の動きに振り回され、メディアもあまり問題にしない。これまでの情報の整理からはじめよう。

大阪万博の誘致にあたり、開催経費として建設費 1250 億円、運営費 820 億円とされていた。よく話題になる会場建設費は、日経新聞 5 月 6 日によると「交通アクセスや土地造成以外の整備にかさる費用で、上下水道、電気などライフライン、会場舗装、途上国向けパビリオン、水辺の空間整備などにあてる。国、府市、経済界が 3 分の 1 ずつ負担」する。400 億円超の経済界の負担が、地元関西企業で 200 億円などと報じられている。大阪府市の負担割合は定かでないが、愛知万博では愛知県と名古屋市が 3 対 1。

万博の運営費は、万博の広報、開催期間中の警備などであるが、どこが負担するのか分からない。問題は会場予定地の夢洲の整備である。手元に「平成 31 年度予算 視聴査定ヒアリング資料 国際博覧会の開催及び IR を含む国際観光拠点形成に向けた夢洲地区の土地造成・基盤整備事業」平成 31 年 1 月 17 日の写しがある。これによると、事業費は 954 億円。その内訳は次のように記してある。

- ① 埋立・盛土 (万博) 136 億円
- ② 埋立・盛土 (IR) 30 億円
- ③ 観光外周道路 34 億円
- ④ 高架道路 (道路部) (橋梁部) 43 億円
- ⑤ 下水道 (排水管等) 106 億円
- ⑥ 上水道 (ポンプ等) 26 億円
- ⑦ 鉄道 (南ルート) [事前調査] 1.4 億円 [インフラ部]
250 億円 「インフラ外部」 290 億円
- ⑧ 夢洲幹線道路 10 億円
- ⑨ 舞洲幹線道路 0.2 億円
- ⑩ 此花大橋 (6 車線化等) 26 億円
- ⑪ 夢舞大橋 (6 車線化) 1 億円

なお、朝日新聞 4 月 3 日によると、夢洲周辺のインフラ整備費は写真のように計 930 億円としている。万博会場造成 136 億円、上下水道整備 132 億円、道路整備 87 億円、その他 33 億円である。



(2019年6月6日)